

権への要求、私たち自身が九条を実現するという決意の表明、あるいはこれまで九条を実現する努力を怠ってきたことへの反省など様々に受け取られています。しかしそれら多様な解釈は、今こそ九条を実現する努力が求められているという思いで一致していると思います。この四文字がまず目に飛び込んで感動したという声がたくさん寄せられています。それは攻勢的な憲法改悪反対運動の広がり求められているということの証でしょう。

まだまだ発揮されていない《民衆の平和力》

去る四月、衆参両院の憲法調査会は改憲を想定した最終報告書をまとめました。国民投票法案の審議を可能にする国会法の改悪が迫りつつあり、自民党は立党五〇年にあたる今秋十一月一日に新憲法の草案を発表します。憲法改悪の動きは加速しています。しかし改憲反対運動にはまだまだごく一部の人がびとしか参加していません。これから無数の運動主体が生まれ新たな動きが次々に奔出しないうと改憲の動きを押しとどめることはできません。《民衆の平和力》はまだ十分掘り起こされていないと言わねばなりません。

今年の五月三日、全国紙と地方紙に掲載された反改憲意見広告は最低でも二五あったと思われまふ（調査中です）。この数も前代未聞で今春それぞれに響き合う意見広告はまさに（花盛り）の感がありました。むろん意見広

告は改憲反対運動の一つの手段にすぎず、《民衆の平和力》を存分に噴出させることは諸反改憲運動の共通の課題です。

今回の私たちの広告には、改憲派の人びとや右翼団体が激して反応し、電話やFAXで抗議や罵詈雑言が数多く寄せられました。しかしそれはかえってこの広告の大きな政治的な意味を明らかにしています。「九条実現」広告は、憲法九条を変えすることに反対する市民の強い意思の存在を世論にアピールするとともに、憲法改悪に反対する人びとを励まし共に手を携える決意をいよいよ強化することに役立っていると思います。

広告に触れて元自衛官が好意的な意見をのべたり、現役の前自衛官の家族が電話で賛意を

表明するということもありました。そのように広告は対話のきっかけにもなっています。

率直に思いをのべあい意見交換と交流によって思想豊かで強力な改憲反対パワーが形成されねばなりません。市民意見広告運動はこれからもいっそう努力を続けようと思います。

来年の憲法記念日には四七都道府県すべての地方紙に反改憲広告が掲載される、そんなすばらしいことが起きよう、あなたもあなたが住む地域で努力してみませんか。魯迅は「歩く人が多くなればそれが道になるのだ」とのべています。

（いのうえ・すみお、市民意見広告運動・事務局）
【編集部より】本「ニュース」90号には、「付録」として、この意見広告の紙面別刷を同封します。

「イラク・ブーメラン意見広告プロジェクト」報告

高橋建吉

国家間の歪みに影響されず、世界の市民の有機的な繋がりによって、あらゆる戦争と侵略行為の終結と予防などを目指している若者のネットワーク「BOOMERANG NET」は、ブッシュ米大統領によって「イラクでの大規模戦闘終結宣言」からちょうど二年となる今年五月一日、中東地域の有力紙『アルハヤート』に、意見広告を掲載した。イラクの現状を踏まえ、

この運動の報告をさせていただきます。

＜「BOOMERANG NET」とイラクへの思い＞

二〇〇三年三月一九日、イラク戦争がアメリカ主導で一方的に開始された。当初から、この戦争の不当性は国際法的にも人道的にも明らかだった。しかし、日本政府はアメリカのイラク攻撃をいち早く支持し、また五〇億



ドルものカネをイラクの占領のためにODAとして拠出し、自衛隊まで派遣してイラク占領に加担している。アメリカ主導の侵略と占領によって、現在までに文民を含め一〇万とも二〇万とも言われるイラク人が死に、一六〇〇人以上の米兵が死に、日本人も少なくとも五人が犠牲になっている。

イラク情勢は膠着している。連合国暫定当局(CPA)からイラク暫定政府連への主権移譲が完了し、今年一月三〇日には国民議会選挙が行なわれるなど、イラクの自立と安定化が着実に進んでいく兆しも見られる一方、実際は日常的に「現地武装勢力の自爆テロ」があり、「米軍の空爆」が止まず、相変わらず血が流れ続けている。連日のように伝えられる「人間の死」が慢性的に繰り返される中で、凄惨なイラク情勢は、恐ろしいことにニュースとしての新鮮さを失っている。そして、日

本に住む私たちはイラクを攻撃する側に立つて、間接的に人を殺していることを、「日常」の中で忘却しようとしている。だからこそ、イラク戦争における自己の責任を、私たちはもう一度確認する必要があった。そして同時に、ネガティブな自省だけでなく、現状を変えていくための「何か」を試みたいと、心底願っていた。

第一次世界大戦以降、戦争は定義された戦場でのみ行なわれるものではなくなった。そしてまた兵士のみならず、民間人が戦争の被害を直接に受けることが普通になった。先に述べたとおり、イラクにおいても多くの民間人が空爆の対象となり、劣化ウラン弾の被害を受け、レイプされ、様々な方法で殺されている。戦争の当事者として最も大きな被害を受けるのは、一般の民衆だ。そして、日本に住む私たちは、イラク攻撃にカネを出し、自衛隊をイラクに派遣した政府の政策

を結果的に支持してしまっているという意味において、疑いようもなくイラク攻撃・占領の当事者になった。その結果、日本への敬意と友好的感情を持っていたイラクを含む中東地域の人びとの「日本」なり「日本人」へのイメージは、少しずつ変化しているということを感じている。

〈市民対話のための意見広告〉

私たち「BOOMERANG NET」のメンバ

十数名は、昨年末から上述した幾つかの状況に非常な危機感を抱いていた。そして、その危機感とイラク戦争・占領の当事者としての責任を、何らかの形で表現したいと考えていた。そうした考えを具現化するために様々なアイデアが出され、議論した結果、イラク・中東市民に対して意見広告を利用して市民同士の「対話」を呼びかけることを決めた。具体的には、中東地域有力紙『アルハヤート』へのアラビア語による意見広告掲載を想定し、意見広告を一方的な「意思表明」のために使うのではなく、読み手が自分の意見を広告主である私たちに返し、そこから「対話」を始められることを目指した。私たちは、「意見広告の企画名を「イラク・プーメラン意見広告」とし、今年に入って本格的に準備を開始した。「BOOMERANG NET」のメンバーは一〇代から三〇代の若い世代で、それぞれ学生であり会社員だ。市民運動やNGOの活動に関わった経験がないメンバーも多く、プロジェクト運営にあたって困難な問題も多かった。

三月上旬から本格化した賛同金の募集は、当初全くうまくいかなかった。プロジェクト全体の目標額は二〇〇万円だったが、締め切りの四月一五日を直前にした四月上旬までは、その半分すらも集まっていなかった。また、会計作業や広報、その他様々な決して派手ではない事務作業が続いたこともあり、メンバーの多くは途轍もない疲労と賛同金が集まらないことへの不安感を全身に充満させていた。

しかし、四月に入ると、一日で一〇万円〜二〇万円もの賛同金が毎日のように「BOOMERANG NET」の振替口座に振り込まれるようになる。さらに、停滞した状況を一気に変化させたのは、四月九日・一〇日に大きなイベントを催したことだった。四月九日には、学生主宰NGO「Body And Soul」との協力により、明治学院大学において「高遠菜穂子さん講演会」を開催した。国内でのイラクへの関心が急速に冷え込む中で、二五〇名ほどの参加者を集めることができ、多くの参加者が意見広告へ賛同の意を表してくれた。また、四月一〇日には、「市民の意見30の会・東京」と「市民意見広告運動」の主催で鶴見俊輔・小田実・澤地久枝氏らによる講演会が催され、主催者のご好意で、「イラク・ブーメラン意見広告プロジェクト」への賛同を呼びかける時間をいただいた。この二つのイベントの成果も良い影響を与え、四月一五日の賛同締め切りまでに、目標額の二〇〇万円を達成することができた。

〈実際の意見広告紙面〉

五月一日に『アルハヤート』に掲載した意見広告の中で、「BOOMERANG NET」は以下の三点を日本からアラブの市民へのメッセージとして表現した。

1. わたしたちの声を聞いてください。あなたたちの声を聞かせてください。戦争と占領に反対する声をあわせましょう。

2. 私たちは、アメリカによるイラク占領に反対しています。

3. 日本の自衛隊がイラクから撤退することを求めています。

紙面には、日本国憲法第九条の全文もアラビア語で掲載した。「BOOMERANG NET」は、九条について「護憲」なり「改憲」なりの立場を明確にしている訳ではない。しかし、少なくとも現段階で日本は九条を保持し、自衛隊がイラクに派遣されていること自体、違法であるということ、アラブの人びとに理解してもらいにくかった。九条を、今回のようにアラビア語に翻訳すると、自衛隊イラク派遣の違法性は非常に鮮明となった。

〈意見広告への反応〉

中東の新聞へ意見広告を出すという新たな試みは、予想外に日本国内の各マスメディアの「受け」が悪かった。五〇社以上にプレスリリースを出したが、その中で取材に来たのは朝日新聞とTBS（東京放送）のみ。朝日新聞は五月二日の朝刊社会面で、TBSは四月一三日の「NEWS 23」で、私たちの活動の一部を報道したが、それ以外のメディアには取り上げられていない。

一方、意見広告を掲載したことによって寄せられる中東地域からの反応はというと、非常に好意的なものが多かった。現在までに三〇通ほどのEメールが寄せられているが、そ

の中にはバーレーンの新聞社の社説に、私たちの意見広告の詳細が掲載されたことを報告してくれたバーレーン人からのメールや、イラクの医療従事者から賛同の意を伝えるメールもあった。

〈運動の感動と充足感〉

「イラク・ブーメラン意見広告プロジェクト」は、小さくとも、確かに世界を変えた。その世界とは、私自身であり、「BOOMERANG NET」の若いメンバーであり、意見広告に賛同して下さった一〇〇名以上の日本の賛同人であり、私たちの意見広告の呼びかけに応えてくれた中東各国の人びとだ。さらに、今回は日本と同じ類の構造の中で軍隊をイラクに派遣した韓国の三つの市民団体（PSPD（参与連帯）「Iraq Peace Network」「Peace Action Network for the end of the war & the withdrawal of the Korean troops」）からも、意見広告への賛同が寄せられた。戦後六〇年であり、同時に日韓の国交正常化から四〇年を迎える今年、韓国と日本でこうした協働が実現したことに、私としては大きな意義を見出している。

今回、意見広告プロジェクトの運営主体の中心に身を置いた私から見ると、「BOOMERANG NET」の試みは様々な困難な問題を多く抱えており、個人的に辛い局面に幾度も出くわした。しかし、それ以上の感動と充実感を持って、プロジェクトの区切りを迎えられることに、心から感謝している。

「市民意見広告運動」の皆さん、「市民の意見30の会・東京」の皆さんには、活動全般に渡って並々ならぬご協力をいただきました。また、イラク支援を展開している「JVC（日本国際ボランティアセンター）」やNPO法人「PEACE ON」にも、大変なご理解とご協力をいただきました。ここでは書き尽せませんが、ご協力いただいた全ての方々に、改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。

「BOOMERANG NET」は、今後も情勢を見ながら様々な活動を展開していきます。今後とも、ご支援いただけますよう、お願い申し上げます。

追記
今回のプロジェクトでは、賛同金二三〇万円余りが日本全国から寄せられました。余剰金が発生しておりますが、この余剰金は今回の目的を踏襲する次回プロジェクトで有効に活用致します。また、ご賛同いただきました方々には、六月上旬までに会計報告と実際の紙面コピーなどを送付させていただきます。

【参考】
『Al Hayat (アルハヤート)』Web Site:
http://www.daralhayat.com/
「BOOMERANG NET (ブーメランネット)」Web Site:
http://www.boomerang-ad.net/
BOOMERANG NET (ブーメランネット)の事務局連絡先は「市民の意見30の会・東京」内に置かせてもらっています。同じ住所です。

『「反改憲」運動通信』創刊

反改憲運動の新しい定期刊行物が、5月に創刊されました。月2回の発行で、全国の反改憲運動の情報交流、意見交換のためのメディアです。市民の意見30の会・東京も、この刊行の呼びかけ団体の一つになっています。

見本誌ご希望の方や、購読申し込みの方は下記へご連絡ください。

A4版6ページ。購読料は1年24号分で4,000円です。

101-0061 東京都千代田区三崎町3-1-18 近江ビル4F 「市民のひろば」
気付 「反改憲」運動通信・事務局
電話：03-5275-5989

FAX: 03-3234-4118 E-MAIL:
han-kaiken@alt-movements.org
振替口座番号：00190-7-11558

加入者名：「反改憲」運動情報通信
なお、お申し込みの際はこの『通信』のお届けを、印刷物の郵送か、FAXか、あるいは電子メールに添付のPDFファイルかの、どれをご希望かも、知らせてください。

◆ただし、この原則で豊かな運動をつくるためにも、意見が違う人間に暴力をふるって来た上に、それを正当化し続けている政治グループとのおつきあいはできかねることを、共闘原則として確認して進みたいと思います。

(「反改憲」運動通信事務局)

e-mail: info@boomerang-ad.net
URL: www.boomerang-ad.net
郵便振替口座
加入者名:BOOMERANG NET
口座番号:00220-6-78892

(たかはし・けんきち、大学生、BOOMERANG NET (ブーメランネット) 代表)



◆私たちのこのメディアは、権力政党の憲法改悪に反対する声には、どのような視点からのものであれ、開かれたものでありたいと考えています。そして、読者の運動情報・意見を積極的に寄せて頂き、多くの読み手が書き手(発信者)でもあるスタイルを目指したいと思っています。